

| 先進的あるいは特色ある教育課程 | 学校名等 | 課程 |
|-----------------|---------------|--------|
| 「主体的・対話的で深い学び」 | 栃木県立大田原女子高等学校 | 全日制普通科 |

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・創立107周年の女子高で、1年次5クラス、2・3年次6クラスの計17クラスである。
- ・本校では、平成26年度より「アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」、以下ALと表記する）」の研究と実践を全校的体制で進めてきている。
- ・ALの手法を取り入れることにより、生徒が習得した知識等を活用し、思考力、判断力、表現力等を高めると共に、主体的で対話的な学習態度を身につけることを基本的な目標としている。なお、キャリア教育の視点からも推進を図っている。
- ・5年目を迎えた今年度は、教員対象のAL実施状況調査、生徒対象の授業評価アンケートなども活用し、「可視化」「AL20」「R80」「ICT機器の活用」をキーワードに、より組織的でより質の高い実践を目ざしている。

(授業展開)

- ・「AL指数」を参考に授業を実施している。今年度の目安をAL20としている。黒板に掲示できるマグネット式の大型タイマーを活用した授業展開が基本となっている。
- ・教科や教員により書画カメラやプロジェクタ、パソコン、タブレットなどICT機器を有効に組み合わせた授業を行っている。
- ・ペアワークやグループワークを日常的に行っている。生徒も自然体で取り組んでいる。
- ・保健や芸術科目を含めてR80の積極的活用を図っている。
- ・数学などでは習熟度別授業の下、TO学習的な教えあいが効果的に行われている。
- ・1・2年次の総合的な学習の時間の取組がALの土壌をつくっている。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・現職教育を定期的に行っている。外部講師を次のように招いている。
平成26年度は、産業能率大の小林昭文氏、宇大の松本敏氏、平成27年度は、県総教センターの若杉俊明氏、盛岡三高の下町壽男氏、平成28年度は、並木中等教育学校校長の中島博司氏、ベネッセの蘆田章吾氏、平成29年度は、再度、中島博司氏を招いている。

(外部人材の活用)

- ・平成26年度から29年度にかけて、盛岡三高、八王子東高、春日部女子高、開智未来中学・高校、立命館宇治中学・高校、奈良市立一条高、並木中等教育学校、宇都宮高、中央中等教育学校などを視察している。

③ 校内組織

- ・主幹教諭兼学習指導部長を委員長、進路副部長を副委員長とするAL推進委員会を設置し、組織的で計画的な実践に努めている。
- ・公開授業を随時行っていたが、今年度は公開期間を限って期間内にAL指数等を公表しての授業を行い相互に見学している。授業公開シートを活用しコメントを出し合っている。6月の公開授業は外部にも公開している。

④ 施設設備

- ・栃木県の「アクティブ・スクール」プラン等を活用し、全教室にプロジェクタを、また、ミニホワイトボードを10枚ずつ、マグネット式の大型タイマーを1台ずつ整備した。

⑤ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法

- ・近隣の大田原高校と教員研修会を共有し、それぞれが企画する研修会等に相互に参加している。また、6月の授業公開には保護者と共に近隣の小中学校、高校の教員も訪れる。

⑥ その他

- ・R80の取組は論理的な思考力や表現力を育成する上で有効であると考え一層の実践を進めたい。記述式・論述式問題を解答するために必要な力をALを通して付けるよう工夫する。

イ 今後の課題

- ・ALに対する評価法の確立。感覚的、経験則的な評価から脱却する。

※「AL指数」「R80」「TO学習」は中島博司氏の提唱によるものである。